

絵本専門士の養成と活躍について ～絵本専門士将来ビジョンから～



National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構

絵本専門士とは

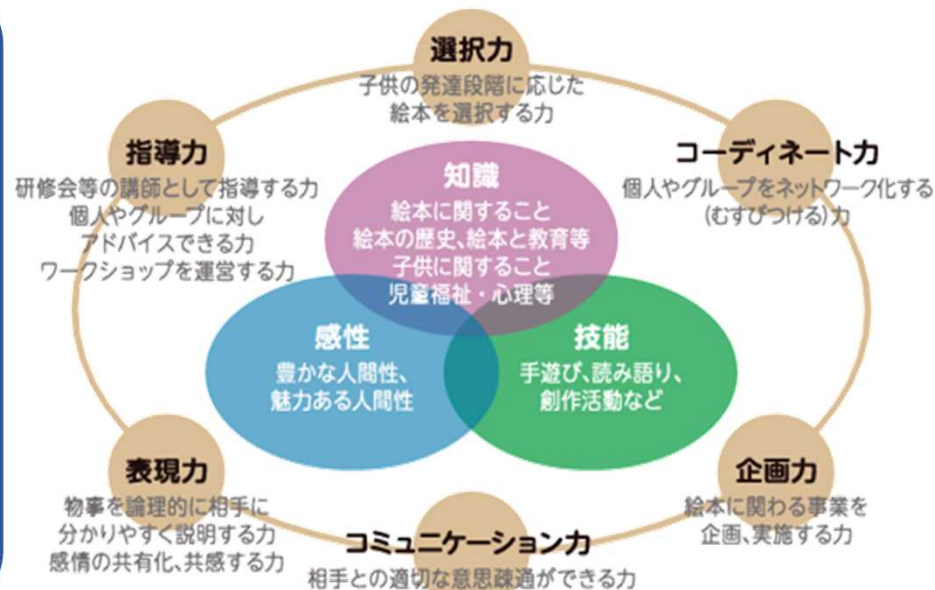
～絵本に関する高度な知識、技能及び感性を備えた絵本の専門家～

子供たちの健やかな成長を促す絵本の可能性やその活用法を、学校や家庭のみならず地域社会全般に普及させるとともに、実際に絵本の読み聞かせやワークショップをはじめ子供たちの読書活動の推進に携わる、絵本の専門士を養成する必要があることから、創設された制度です。

絵本専門士の役割

- 読み聞かせやおはなし会、ワークショップなど実際に本を使って行う取組み
- 絵本に関する知識をもって行う指導・助言、絵本に関する自らのネットワークを活かした人的・物的コーディネート
- 幼稚園や保育園、学校、図書館、医療機関など活躍の場は様々

絵本専門士に望まれる主な資質・能力



絵本専門士の活動事例

公共図書館司書（第1期 養成講座受講）：埼玉県

- ・市の関係部署・機関と連携した、様々な絵本講座の実施
- ・公民館や子育て支援センター等での親子を対象とした読み聞かせやワークショップの実施、市の屋外イベントにて「森の図書館」の開館
- ・地域で活動する読み聞かせボランティア対象の絵本講座
- ・地域の小学校でのおはなし給食の実施や高等学校での保育士を目指す生徒を対象とした絵本講座などの実施
- ・子供に関わる職員（図書館、児童館、民生委員・児童部会員など）を対象とした絵本講座の実施



学校図書館司書（第7期 養成講座受講）：大阪府

- ・公共図書館や幼稚園でのおはなし会の他、高齢者や大人の方々への読み聞かせを実施
- ・絵本作家さんとのイベントや書店でのおはなし会や、絵本講座などニーズに合わせた様々な活動の実施
- ・下記の気持ちを大切に活動している

『赤ちゃんとママ達 ⇒「絵本のある子育て」を応援する気持ち』

『高齢者の方々 ⇒「絵本との出会い直し」のお手伝いの気持ち』



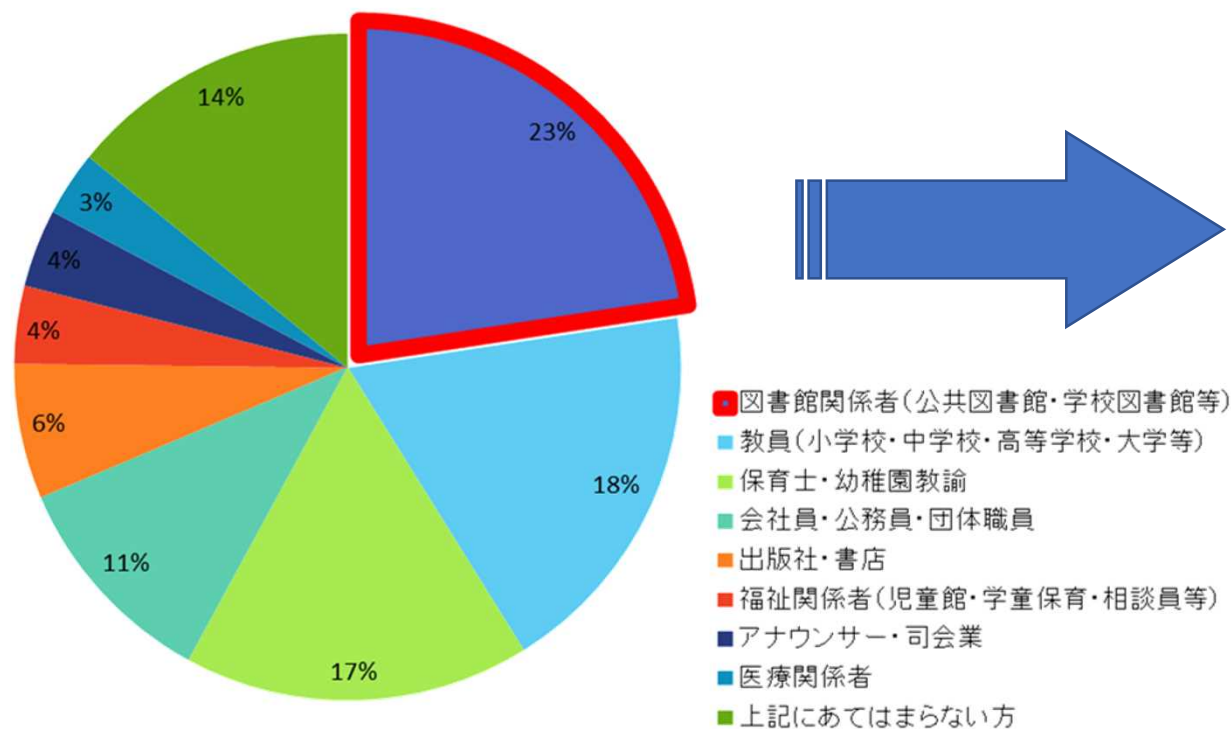
絵本専門士の養成状況

人材養成について

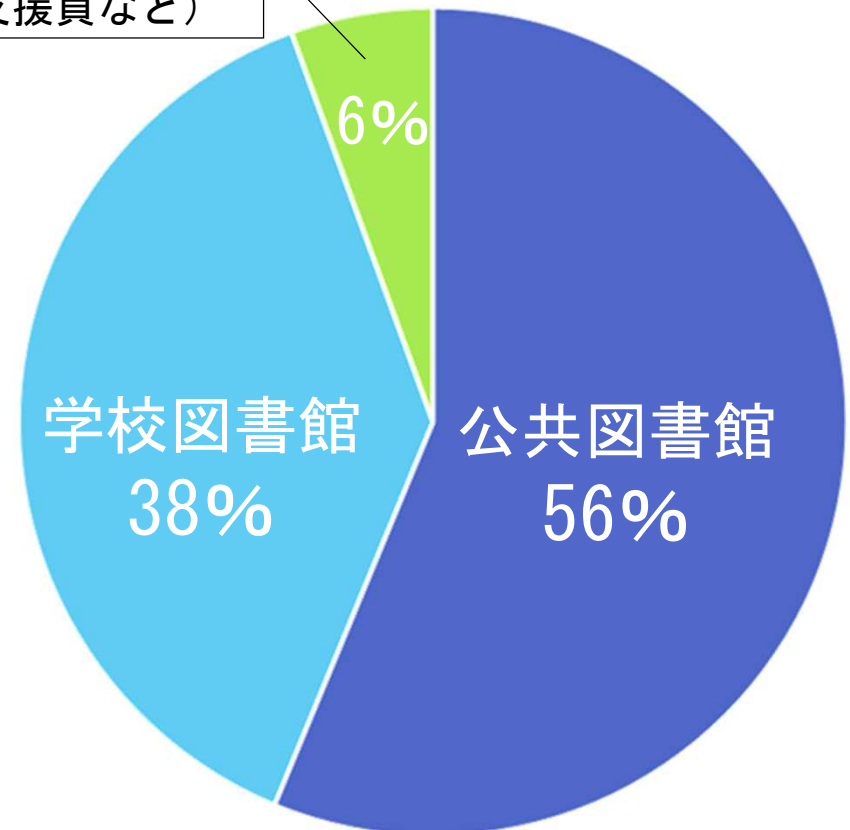
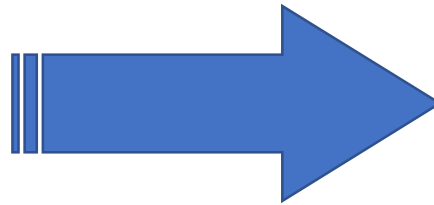
10年間で絵本専門士637名を養成

職業別の割合をみると、図書館関係者が最も多く、全体の23%

職業の割合



その他
(図書サポーター、図書支援員など)



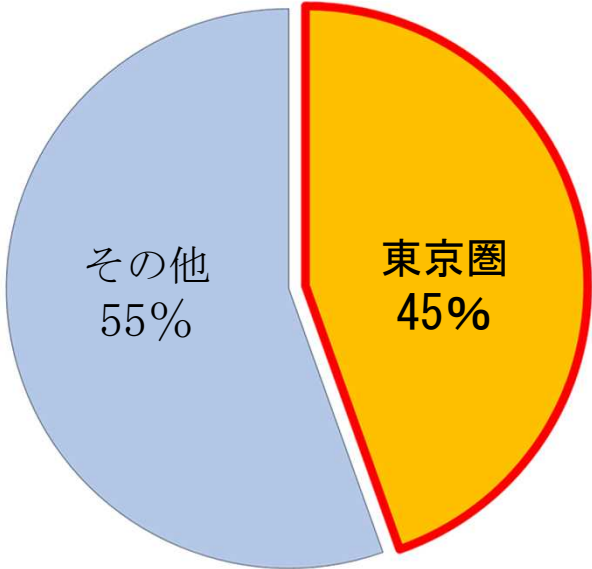
絵本専門士の現状と課題

人材養成について

課題①

養成状況を都道府県別に見てみると全体の約45%が東京・埼玉・千葉・神奈川の東京圏に集中している

図1：絵本専門士の居住地



No.	都道府県	計
1	北海道	16
2	青森	4
3	岩手	8
4	宮城	7
5	秋田	3
6	山形	3
7	福島	5
8	茨城	14
9	栃木	9
10	群馬	7
11	埼玉	43
12	千葉	44

No.	都道府県	計
13	東京	138
14	神奈川	59
15	新潟	13
16	富山	8
17	石川	4
18	福井	4
19	山梨	3
20	長野	20
21	岐阜	9
22	静岡	17
23	愛知	18
24	三重	4

No.	都道府県	計
25	滋賀	5
26	京都	14
27	大阪	32
28	兵庫	15
29	奈良	9
30	和歌山	6
31	鳥取	4
32	島根	4
33	岡山	7
34	広島	6
35	山口	2
36	徳島	7

No.	都道府県	計
37	香川	6
38	愛媛	7
39	高知	3
40	福岡	15
41	佐賀	7
42	長崎	4
43	熊本	5
44	大分	2
45	宮崎	3
46	鹿児島	9
47	沖縄	5

計	637
---	-----

(出典：絵本専門士へのアンケート調査結果(R5年度))

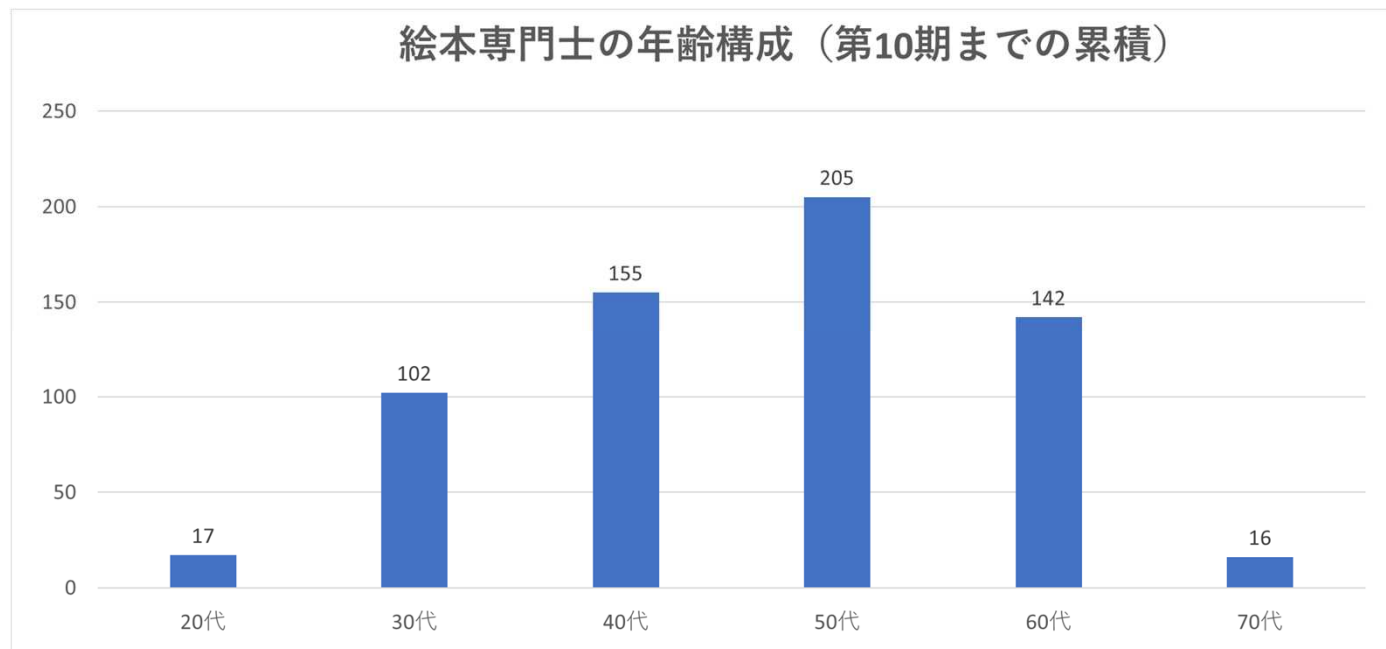
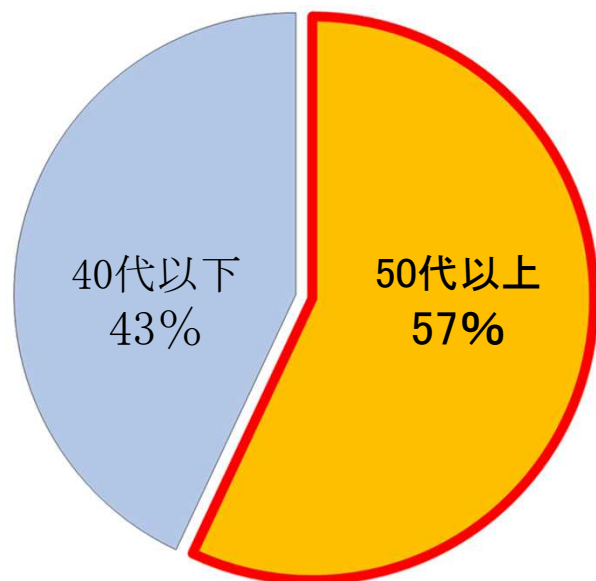
絵本専門士の現状と課題

人材養成について

課題②

50代以上の割合は、全体の約57%を占め、若い世代の絵本専門士が少ない

図 2：絵本専門士の年齢



(出典：絵本専門士へのアンケート調査結果(R5年度))

絵本専門士の活動状況について

現状と課題

○子供向けの読み聞かせやワークショップが多数を占める

⇒絵本の意義や効果を踏まえた幅広い年齢層を対象とした活動の展開

○絵本専門士が少ない地域では、絵本専門士が個人で活動を企画・実施

⇒・絵本専門士のネットワークの構築

・絵本専門士と絵本に関わる様々な団体との協働による活動の実施

○絵本専門士の知識・スキルのアップデートは、主に個人の自己研鑽

⇒講座終了後の体系的な学習機会の欠如

認定絵本士とは

～絵本専門士とともに子供の読書活動を力強く推し進める～

子供の読書活動を力強く推し進めていくためには、絵本専門士だけではなく、若い方々にもっと関心を持ってもらい、活動に参画し、牽引してもらうことが不可欠であるとの考えから、大学や短大等と連携した「認定絵本士」養成制度が令和元年度からスタートしている。

認定絵本士の役割と認定後について

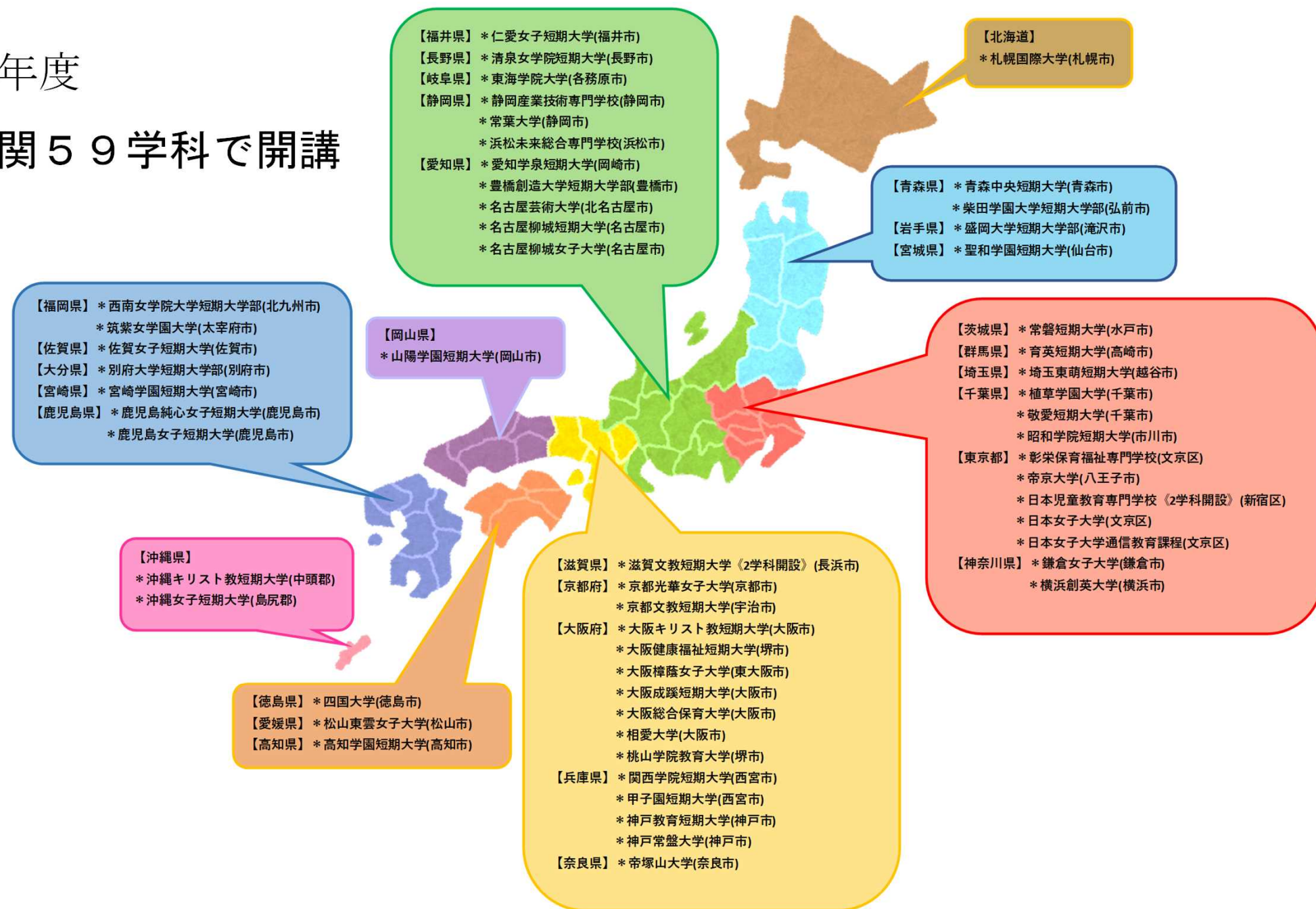
認定後は、講座で学んだ幅広い知識や技能等を活かし地域や職場で、絵本の魅力や可能性を伝え地域の読書活動を充実させる役割が期待される。

一定の実務・実践経験を積み、資質、能力がふさわしいと絵本専門士委員会から認められることにより、絵本の専門家である「絵本専門士」と認定される。

認定絵本土養成講座開設機関

令和6年度

57機関59学科で開講



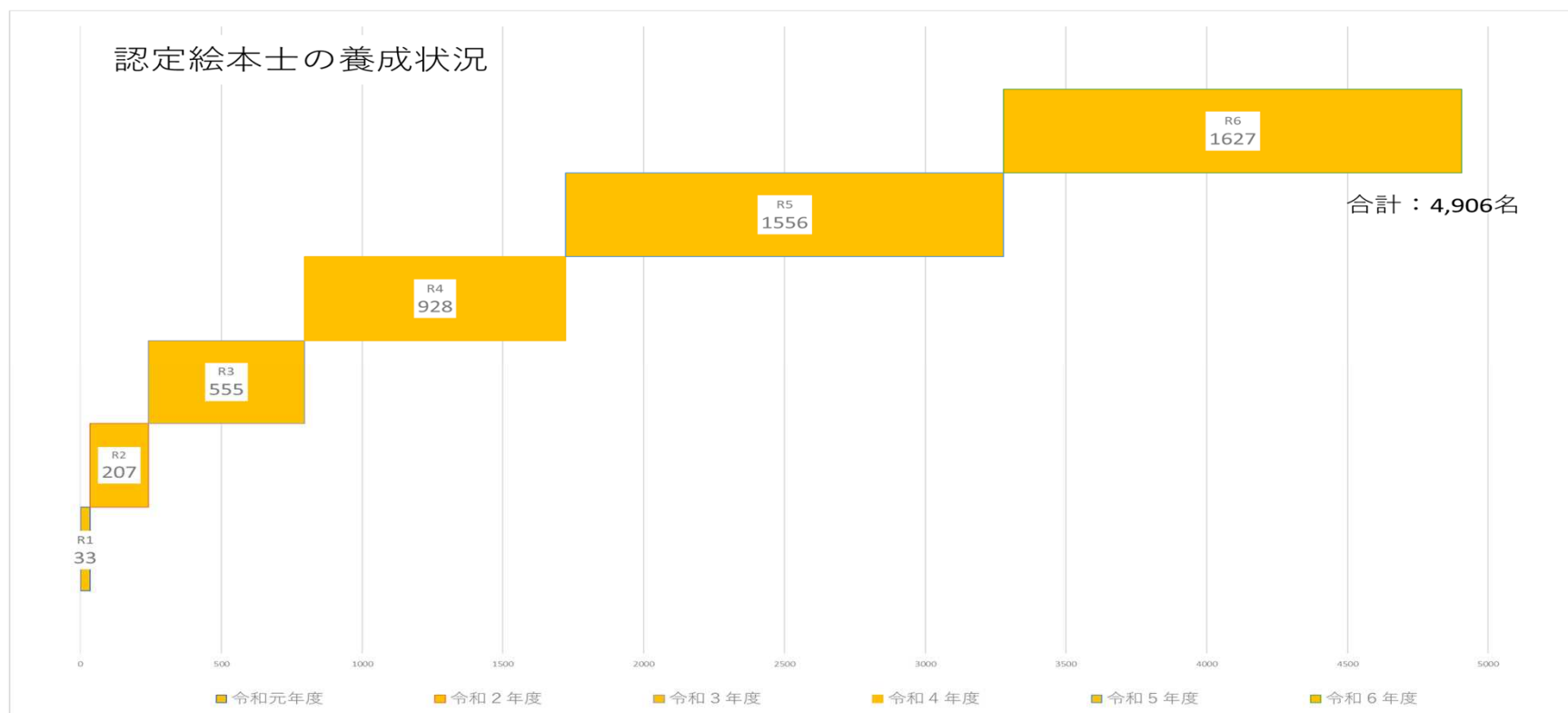
認定絵本土の養成状況

人材養成について

認定絵本土 4,906名 を養成

課題

これまで毎年度、認定者数が増加しているが、伸び率は鈍化している
開設校数は増加傾向だが、定員充足率が低い学校がある



今後取り組むべき主な方策

1. 絵本専門士の活動の拡充

- ・ 多様な知識・スキルを学ぶ機会の確保（リカレント教育）
- ・ 絵本専門士が互いに支え合うネットワークの構築
- ・ 様々な関係団体との連携の促進（地方公共団体、出版社、書店、図書館、美術館等）

2. 絵本専門士・認定絵本土の養成の充実

- ・ 東京圏とは別の地域での新たな養成講座の開設
- ・ 養成講座のカリキュラム再編
- ・ 絵本専門士の養成を担う講師の人材育成・確保
- ・ 認定絵本土の養成講座における社会人の積極的な受入れやオンラインの導入

3. 絵本専門士の活動を支える仕組みの構築

- ・ 絵本専門士の団体の創設
- ・ 絵本専門士の認知度向上（ブランディング）の推進
- ・ 絵本専門士の顕著な活動の表彰や広報の実施
- ・ リカレント教育の実施（再掲）
- ・ 事務局機能の強化と収入の確保

現状と課題

人材養成について

- 10年間で絵本専門士637名を養成
(課題)・地域や年齢の偏在性の解消 (図1・図2)
・養成講座の講師の確保
- 認定絵本土4,906名を養成
(課題)・定員充足率の向上のための受講生の確保

活動状況について

- 子ども向けの読み聞かせやワークショップが大半 (図3)
(課題) 幅広い年齢層を対象とした活動の展開
- 絵本専門士が個人で活動を企画・実施
(課題) 絵本専門士の組織化と様々な関係団体との協働
- 個人の自己研鑽による知識・スキルのアップデート
(課題) 講座終了後の体系的な学習機会の欠如

(参考) 図1：絵本専門士の居住地

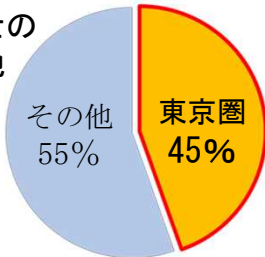


図2：絵本専門士の年齢

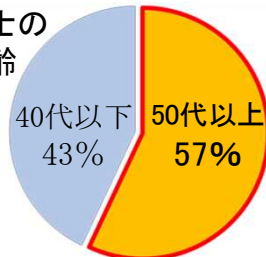
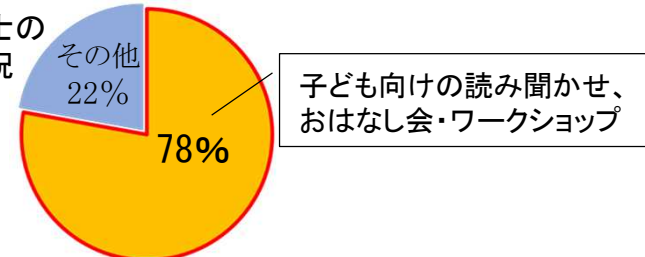


図3：絵本専門士の活動状況



(出典：絵本専門士へのアンケート調査結果 (R5年度))

今後取り組むべき主な方策

1. 絵本専門士の活動の拡充

- ・多様な知識・スキルを学ぶ機会^{の確保} (リカレント教育)
- ・絵本専門士が互いに支え合うネットワーク^{の構築}
- ・様々な関係団体との連携^{の促進} (地方公共団体、出版社、書店、図書館、美術館等)

2. 絵本専門士・認定絵本土の養成の充実

- ・東京圏とは別の地域での新たな養成講座^{の開設}
- ・養成講座のカリキュラム再編
- ・絵本専門士の養成を担う講師の人材育成・確保
- ・認定絵本土の養成講座における社会人の積極的な受入れやオンラインの導入

3. 絵本専門士の活動を支える仕組みの構築

- ・絵本専門士の団体^{の創設}
- ・絵本専門士の認知度向上 (ブランディング) ^{の推進}
- ・絵本専門士の顕著な活動の表彰や広報^{の実施}
- ・リカレント教育^{の実施} (再掲)
- ・事務局機能の強化と収入の確保